

AI 新時代

みやざき企業活用術

①

「この1年、AI（人工知能）はすごいスピードで進化している。未来を生き延びる感じがする」。都内大手企業でDX（デジタルトランスフォーメーション）コンサルティングを務め

丸宮建設（都城）

社内業務次々スリム化



生成AIを使った改革を推し進める河野一步副社長（右）と河野なつき氏＝都城

た経験もある河野一步氏（38）は目を輝かせる。生成AIを活用した改革 2024年春に米グーグル

社の生成AI「Gemini（ジエミニ）」を搭載した企業向けサービス「Google Workspace（グーグルワークスペース）」を導入。数年前にUターンした副社長の一步氏と、妹で人事責任者のなつき氏（34）が中心となり社内業務を次々とスリム化している。DXではグーグルワークスペースの多様な機能が生きる。就業規則や変更点を「ノートブックLM」に学習させ、自動対話システム

を整理して次のステップまで推奨してくれる」と一步氏。進化する能力に驚きは尽きない。なつき氏が特に感銘を受けたのは方言の強い顧客の会話を標準語に変えて要約してくれたこと。「会話中は6割くらいしか理解できなかった。社員採用の場面では履歴書から適性を分析し、面接での質問案を助言するAIエージェントも稼働中だ。

行政書士や社会保険労務士といった土業の役割も担う。「あなたは優秀な弁護士です」などと打ち込めば、複雑な労務問題に関する助言や専門的な文書作成までこなしてくれる」と一步氏。進化するAIとともに急ピッチで進むDX。「AIで生産性が爆上がりとなることは間違いない。これからは企画、構想を練ることができる人材が必要とされるのではないか」。一步氏は次のステージを見据えている。

県内で生成人工知能（AI）を導入する企業が増えてきた。手探りながらも社内の効率化、DXにつなげようとする各社の状況をリポートする。

（樋口由香）